

(特非) 三番瀬環境市民センター

豊かな三番瀬を未来に引き継ぐために 市民による干潟のモニタリング調査の手法の確立と調査の実践

イベントの延べ参加者数 174人

イベント参加者の満足度 95%

活動の全体目標に対する達成度 90%



船の上から採泥器を落として底質を採取

◆成果と工夫したポイント

●成果

調査を予定通り8回実施でき、参加したコアメンバー間で方法、手順を共有できた。ベントス調査をモチーフとした環境学習プログラムをつくり、小学生から大人まで延べ150人に実施した。

●工夫

スタッフ間の情報共有。調査の方法、出現生物のこと、三番瀬の環境のことなどを充分話し合った。



課題

奇跡的に残った東京湾奥の干潟・浅海域(三番瀬)を、市民とのつながりの中で保全・再生したい。

目標

三番瀬の保全・再生をすすめるために、市民が実施できる調査の手法を確立し、継続的にモニタリングを実施する。調査で得た情報は広く発信して、三番瀬再生の機運を高めていきたい。

活動内容

三番瀬内の環境が違う2地点4ポイントを選び、年間を通してベントス(底生生物)と水質の調査を行った。出現した生物を拾い出し、ソーティング(分類)して同定した。

調査で得た技術や情報のアウトプットのひとつとして、ベントス調査をモチーフとした環境学習プログラムをつくり、小学生親子などに実施した。また、調査で得た情報、画像を使って、三番瀬の現状を伝えるプレゼンテーションをつくり、小学生親子などに対して講演した。



採取した砂の中からゴカイや甲殻類を拾い出す

達成できなかったこと

調査日程の設定に問題があり、年度内に調査の報告書を完成できなかった。

今後の展望

仲間づくり、人材育成をしながら、三番瀬の再生をすすめていきたい。